

住宅
防火

いのちを守る

10のポイント

4つの習慣



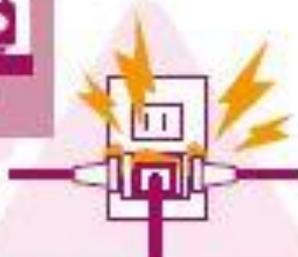
1 寝たばこは
絶対にしない、
させない



2 ストープの周りに
煙草やすいものを置かない



3 こんろを使うときは
火のそばを
離れない



4 コンセントはほこりを満挿し、
不必要なプラグは抜く

6つの対策



1 火災の発生を防ぐために、
ストーブやこんろ等は
安全装置の付いた機器を使用する



2 火災の早期発見のために、
住宅用火災警報器を定期的に点検し、
10年を目安に交換する



3 火災の拡大を防ぐために、
窓枠を整理整頓し、
寝具、衣類及びカーテンは、
防炎品を使用する



4 火災を小さいうちに消すために、
消火器等を設置し、
使い方を確認しておく



5 お年寄りや身体の不自由な人は、
避難経路と避難方法を常に確認し、
備えておく



6 防火防災訓練への参加、
戸別訪問などにより、
地域ぐるみの防火対策を行う



消防庁

Fire and Disaster Management Agency
<https://www.fdma.go.jp/>

お問合せ先

甲府地区消防本部



地震火災を防ぐ

15のポイント

○事前の対策

- 1 住まいの耐震性を確保する
- 2 家具等の転倒防止対策（固定）を行う
- 3 感震ブレーカー※を設置する
- 4 ストープ等の暖房機器の周辺は整理整頓し、可燃物を近くに置かない
- 5 住宅用消火器等を設置し、使用方法について確認する
- 6 住宅用火災警報器（連動型住宅用火災警報器などの付加的な機能を併せ持つ
- 7 地震直後の行動（8～10）について平時から玄関等に表示し、避難時に確認

※感震ブレーカーとは…地震の揺れをセンサーが感知し、あらかじめ設定しておいた震度以上の場合に『配線用ブレーカー又は漏電ブレーカー等』を遮断する器具で、各家庭に設置することで出火を防止することができます。

○地震直後の行動

- 8 停電中は電化製品のスイッチを切るとともに、電源プラグをコンセントから抜く
- 9 石油ストーブやファンヒーターからの油漏れの有無を確認する
- 10 避難するときはブレーカーを落とす

○地震からしばらくして（電気やガスの復旧、避難からもどったら）

- 11 ガス機器、電化製品及び石油器具の使用を再開するときは、機器に破損がないこと、近くに燃えやすいものがないことを確認する
- 12 再通電後は、しばらく電化製品に異常（煙、におい）がないか注意を払う

○その他日頃からの対策

- 13 自分の地域での地震火災による影響を把握する
- 14 消防団や自主防災組織等へ参加する
- 15 地域の防災訓練へ参加するなどし、発災時の対応要領の習熟を図る



甲府地区消防本部



**地震時の
通電火災にご注意**



車両火災を防ぐポイント

☑ 日常の注意

- 車内に火災の原因となるものを放置しないようにしましょう



- 喫煙時は灰皿を使用し、喫煙後は確実に火を消しましょう



- カーステレオ・スイッチ等の電装品に飲み物をこぼしたり、ぬらさないようにしましょう



- 冠水した道は走らないようにしましょう
浸水した場合は、速やかに点検を受けましょう



- 不適切な改造は行わないようにしましょう
電装品の取り付けは専門業者に依頼しましょう



- 車両等のボディカバーには防炎製品を使用しましょう

防炎製品
(燃えにくいもの)



☑ 日頃からの対策

- 車両は定期点検・日常点検を確実に実施しましょう



- 点検・整備の際、布切れなどの燃えやすいものをエンジンルームに置き忘れないようにしましょう



- 異常を感じたら速やかに専門家による点検整備を受けましょう



- リコール情報を確認し、リコール対象の車両は速やかに整備を受けましょう



☑ 車両火災にあったら・遭遇したら

- 万が一に備えて、車両火災時の対応を確認しておきましょう

1 走行中なら

- ハザードランプを点滅させて周囲の車両に異常を知らせましょう
- 可能な範囲で、安全な場所に車を停車しましょう

停車中なら

- 周囲の人に火災発生を知らせましょう

2 119番しましょう

3 身の安全を確保し、可能な範囲で初期消火を行いましょう

4 安全な場所に避難しましょう